

ベツカンコおに

令和元年度
厚生労働省社会保障審議会
児童福祉文化財
特別推薦作品

あらすじ

笛吹峠にべっかんこ顔をからかわれていた鬼が住んでいた。里には目が見えなくていじめられていた、ゆきという娘が住んでいた。二人は一緒に暮らすようになった。ゆきは幸せになればなるほど鬼のべっかんこ顔が見たくなった。「鬼の顔は恐いがそれでも

見たいか？」そう鬼が聞いたが、ゆきは「見たい!」と言った。

2012年5月19日 初演 - 感想

前略 本日、女房と『ベツカンコおに』観せてもらいました。久しぶりの観劇。良かった。観てよかった。観ながら幾度か笑い幾度か涙し、少しばかりの震えを押さえて、でした。女房殿「上手やったねえ。」と云う。あたりまえやプロやもんなあ。瞬三さん、年とったねえ・・・と拝顔しつつその姿に感動を覚えました。ゆき演じる夏ちゃんばかり観ており、切なく愛くるしいゆきは、夏ちゃんか、ゆきか・・・。鬼になったり人になったり、人になったり鬼になったり、丸ごと人間なんだよねえ。・・・とあって・・・本日の感動。ありがとう。

みずほ演劇祭 - 感想

素朴な中に心にしみいる劇でした。岐阜の山間の中で育まれた切ないドラマ。テーマもはっきりしていて脚本も素晴らしい。あの澄み切った歌声。お二人の柔らかな笑顔も印象に残っています。久しぶりに珠玉の作品を見せて頂きました。楽しい70分でした。とにかく良かったです。良かったです。

鬼って一体どこにいる
人の中に鬼はいる 人も鬼になれる